

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：甲山中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
世羅町立甲山中学校	5	112
世羅町立甲山小学校	9	141
世羅町立せらひがし小学校	9	132

(R3.11.1現在記入)

1 指導上の課題

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査において、本事業と関連のある質問項目に対する児童生徒の肯定的評価の割合は次のとおりである。

(質問番号小31・中34)
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。

- ・甲山小学校・・・60.0%
- ・せらひがし小学校・・・89.5%
- ・甲山中学校・・・74.3%

(質問番号小35・中37)
5年生まで〔1, 2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

- ・甲山小学校・・・66.6%
- ・せらひがし小学校・・・89.4%
- ・甲山中学校・・・68.6%

中学校の総合的な学習の時間においては、活動が形式的になっており、生徒にとって探究的な学習の過程になっていないことに課題がある。そのため、自分で課題を立て、その課題の解決に向けて自分から取り組むことについて、「当てはまらない」と感じている生徒が3割程度いる。

小学校の総合的な学習の時間においては、これまでも課題発見・解決学習の充実に取り組んできたが、児童自らが課題を立てたり、自らの学び方を振り返ったりすることに課題がある。そのため、児童自らが課題意識をもち、自分から取り組むことについて、「当てはまらない」と感じている児童が3割程度いる。また、このことに関する児童の意識は、学校間の差が大きい。

また、指導に当たっては、育成を目指す資質・能力を小中9年間の系統性をもたせて設定することができていない、小学校と中学校の探究課題において目標や内容の重なりが見られる、改善に向けた協議が十分に行われていないなど、小中連携課題がある。

2 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

本校区では、研究テーマを「地域の未来を見据え、探究的に学習する児童生徒の育成～PBA(プロジェクト型アプローチ)による生活科及び総合的な学習の時間の単元開発を通して～」とした。総合的な学習の時間及び生活科において、探究課題の内容や評価方法について小中9年間の系統性を持たせた教育活動を展開し、「持続可能な社会の形成者」として地域社会で活躍する人材を育成することをねらいとして研究を進めた。

(2) 資質・能力の設定について

資質・能力を設定するにあたり、中学校3校の児童生徒の実態及び付けたい力を推進委員会で協議し、協議内容をもとに各校で検討した。その結果、主体性においては、自ら課題を設定し、その解決に向けて進歩管理をする力、思考力・判断力・表現力においては、自分の思いを他者に伝えたり、他者の思いを推し量ったりする力に課題があることが明らかとなった。そこで、本校区では、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を次の2点に重点化した。

- ①自発性(自ら課題を見つけチャレンジする力、自ら学習の進歩管理をする力)
- ②コミュニケーション能力(伝える能力、受け取る能力)

(3) 取組について

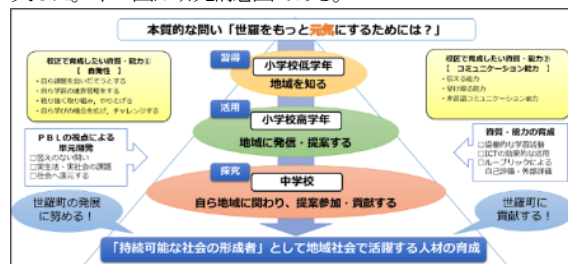
【探究的な学習の充実に向けての取組】

各校の特色、児童生徒の実態、地域の現状、教師の願いを考慮したうえで、研究推進地域の本質的な問いを「世羅をもっと元気にするためには?」とした。この問いのもと、PBLの考え方を基にした単元計画の様式を作成し、それに沿って単元の計画、実践を行った。

甲山小学校第1学年	わくわく学校紹介プロジェクト!
せらひがし小学校第5学年	せらひがしの産業伝え隊プロジェクト
甲山中学校第1学年	交通安全プロジェクト

【小中連携の取組】

小中9年間を、小学校低学年、小学校高学年、中学校の3段階に分けて考え、それぞれの段階における探究のイメージを研究推進方針として共有した。また、目標を『「持続可能な社会の形成者」として地域社会で活躍する人材の育成』とし、小中学校の全職員が同じ方向性で研究を進めることができるよう工夫した。下の図は研究構想図である。



3校での情報共有を目的としたフォルダを作成し、単元計画のフォーマットや作成したルーブリックなどを共有したり、Google Workspaceを活用して研修を行ったりするなど、連携を効果的・綿密に行う工夫を行った。

【資質・能力の評価】

3校で重点化した2つの資質・能力について、各校で目指す姿を具体化し、ルーブリックの作成に係る協議を行った。協議内容をもとに、小学校から中学校への発展性等も踏まえ、それぞれの校種ごとにルーブリックを作成した。作成にあたっては、全職員、児童生徒間で共有することを前提とし、できるだけ簡潔、明瞭に、子どもにもわかる言葉で指標を設定するように工夫した。また、小中の系統性が明確になるよう、小学校と中学校のルーブリックに関連性を持たせた。

3 実践事例

【探究的な学習の充実に向けての取組】

○今年度開発した単元の紹介

甲山中学校第1学年

『交通安全プロジェクト～人の命の大切さを見直そう～』

単元づくりでは、生徒が自ら地域をかかわり、提案参加・貢献することが意識できるよう工夫した。また、教師はファシリテーターとしての役割を大切に、「課題の設定」の際、児童の考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じることができるよう学習対象との出会わせ方を工夫したり、新たな課題が生まれた際に単元計画を見直すよう促したりした。

①課題の設定「身近な人の命を守るために自分たちにできることは何だろう。」

問いについてブレインストーミングを行い、生徒自身の興味・関心に基づいて課題を設定した。



指導者が防災教育の観点から探究課題を設定していたが、生徒が最も課題として捉えたのは「交通安全」であった。そこで、単元計画を作り直し、生徒とともに「交通安全プロジェクト」を立ち上げることとした。

②情報収集「校区の危険な場所はどこだろう。」

活動方針を決定し、地域の危険箇所の情報収集を行うなど、生徒主体で学習を進めた。教師はファシリテーターとして問いかけを行ったり、校外学習の調整や引率といったサポーターとしての役割を担ったりした。



校外での情報収集の様子

③整理・分析「具体的な設置方法や交渉の内容はどのようにするか。」

生徒は学校で横断旗やポスターを作成するチームと、設置の実現に向けて様々な関係機関との交渉を行うチームとに分かれて活動を行った。横断旗やポスターは試作品が完成するたびに新たな課題が浮き彫りになるため、何度もトライ＆エラーを繰り返していた。一方、設置に係る道路管理者との連絡調整や警察署との連携を行った結果、旗や箱の強度の問題、法令等の問題などから、結局、横断旗の設置の許可を得ることができず、新たな課題が生まれた。そのため、次年度以降



警察署との連携

において、横断旗をどうするかについて話し合うこととした。

④まとめ・表現「活動の成果を小学生にどう伝えればよいだろう。」

「まとめ・表現」では、校区内の小学生を対象にオンラインで啓発活動を行った。生徒の願いである「交通安全」について地域に貢献することができた。設置許可を得ることができなかった横断旗については、学級で話し合い、校区の小学校や幼稚園に寄贈することになった。



小学校へのオンライン啓発活動

4 研究の成果と課題等

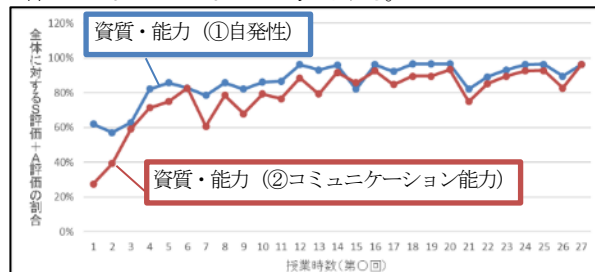
(1) 成果

下の表は総合的な学習の時間に関する教員アンケートの結果である。どの項目についても8割以上が肯定的な評価を示しており、各校における研究及び授業の充実度がうかがえる。

設問	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
担当する学級・学年において、「総合的な学習の時間」及び「生活科」での児童・生徒の学びは充実していると思いますか。	55%	41%	5%	0%
「総合的な学習の時間」及び「生活科」の授業では、児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。	45%	45%	9%	0%
「総合的な学習の時間」及び「生活科」の授業では、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか。	23%	68%	9%	0%
「総合的な学習の時間」及び「生活科」の授業では、各学校で定めた資質・能力の育成を意識した指導ができましたか。	27%	73%	0%	0%
「本質的な問い」や「PBLの視点」を意識した単元構想について、イメージを持つことができましたか。	27%	59%	14%	0%

(2) 課題

下のグラフは生徒の資質・能力に関する自己評価におけるS評価+A評価の割合を、時数経過とともにグラフに表したものである。単元の後半では8割以上の生徒がS評価またはA評価としており、高止まりしている。ルーブリックに示された姿が生徒の実態と合っていないのではないかと考えられる。



(3) 今後の改善方策等

以上の成果と課題を基に、次年度以降に向けて重点的に取り組む項目は次の2点である。

- ①全職員が探究の過程や育てたい資質・能力を意識して、単元を開発・実践できるようにする。
- ②ルーブリックの内容について、実践を踏まえ、より児童生徒の実態に合うよう改善する。

次年度は今年度の取組の改善を図るとともに、本校区の方針の基、固定概念に捉われず柔軟な発想で、新たな実践に取り組んでいきたい。